

# 弦楽器の音楽

オーケストラで使われる弦楽器

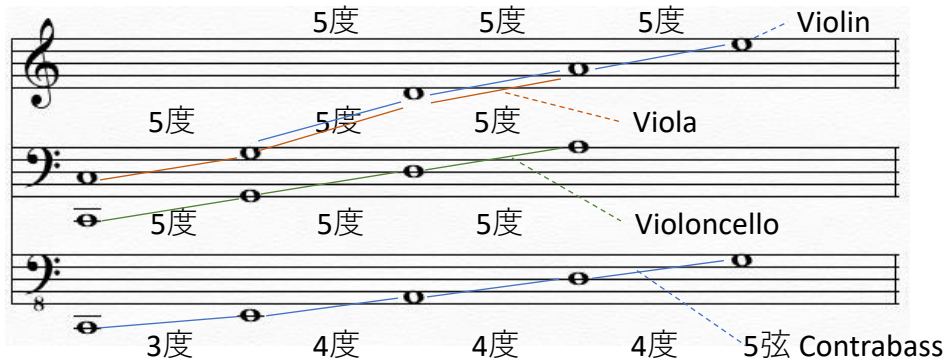
Violin属 : Violin, Viola, Violoncello

Viol属 : Contrabass

5度調弦(4弦)

4度調弦(4弦、5弦)

各楽器の標準的な調弦



特殊な調弦

スコルダトゥーラ(scordatura)と呼ぶ、変則的な調弦を用いる場合があります。

Violin, Viola, Violoncello, Contrabassとも有ります。Baroque時代まで、珍しいことではありません。古典派以降\*に例外的な調弦と扱ようになります。譜面も調弦に合わせた譜面を用意します。

\*Francesco Geminiani (1687 – 1762), Leopold Mozart (1719 – 1787)ともに1751年頃、Violinの奏法についての著書を出版しています。

scordaturaの例

Niccolò Paganini : Violin 協奏曲第1番 半音高い調弦 (As – Es – B – F)

Camille Saint-Saëns : 交響詩“死の舞踏” solo violin (G – D – A – Es)

Gustav Mahler : 交響曲4番 第2楽章 solo violin (A – E – H – Fis)

## 弦楽器の配置

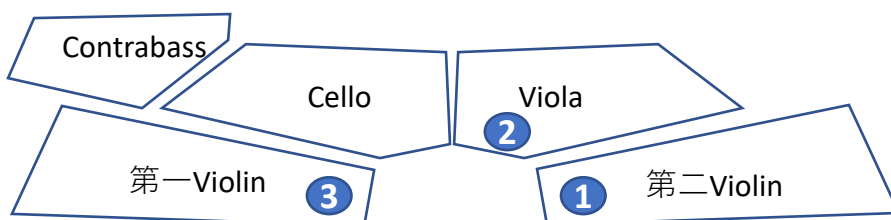
オーケストラの弦楽器の古典配置(対向配置)とモダン配置(Stokowski配置)

Renaissance後期からBaroqueに移行する時期、C. Monteverdiの時代、管楽器は現在使われる楽器とは、種類、構造は異なり、音量が異なります。弦楽器の編成は、Violin 1でも1~3人程度の少人数で充分です。弦楽器が少人数の編成であれば、教会、王宮など演奏場所の広さや形状などの事情に合わせ、柔軟に配置して対応出来ます。Baroque時代を通じて木管楽器が充実し、楽器の編成は現在に近づきますが、それでも弦楽器の人数は少人数です。

Orchestraの形態が整いはじめるのは古典派の時代です。MozartやBeethovenの作品の中には、弦楽器の対向配置を使っていた事が推察出来る例があります。

Mozartの“魔笛”序曲, Beethoven 交響曲第5番 など

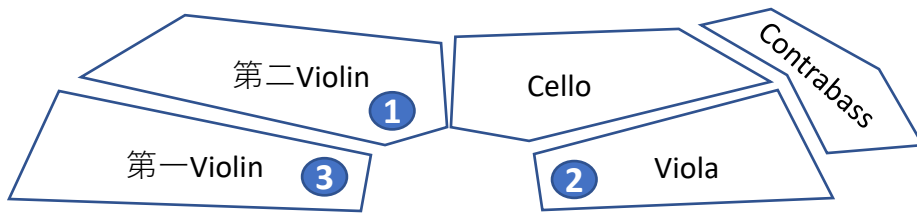
古典配置、対向配置 MozartからBeethoven時代のオーケストラ弦楽器の配置



Violin IとIIが左右に配置され、聴衆にはステレオ効果として聞こえます。

## 弦楽器の音楽

**モダン配置、ストコフスキー配置** 18世紀末頃からのオーケストラ弦楽器の配置規模が大きくなり、弦楽器の人数が増えた場合に有利な点があります。



この配置は、Violin同士のアンサンブルが楽になります：聴衆から聞き分けにくい ViolaとCelloの位置を入れ替える配置も良く使われています。

### 対向配置について

教会音楽にAntiphona(交唱)の形式、イタリアで生まれ各国に普及した複合合唱の形式が、合奏協奏曲などの音楽を通じて、Orchestraの対向配置に何らかの影響、脈絡があるように思います。

管弦楽の発展を受けて、20世紀の指揮者Leopold Stokowski (1882 – 1977)がViolin I, IIが高度にアンサンブルする必然、また、Violinが2声部以上に分割される編成の登場などから、現在の配置を考案し定着させています。

旧レニングラードフィル、Sankt Petersburger Philharmonikerは1772年発足とBeethovenより2年後に生まれた歴史のある大型オーケストラですが、伝統的に対向配置を好んで使います。

### 弦楽器の奏法の指定

弓で弾くarco と、指ではじくpizzicato があります。  
中間的な奏法 spiccato 弓(の中央)を使い弦をはじきます。

arcoは弓の意味です。

弓で弾く arco で「弦のどこを弾く」かは、

sul tasto	: 指板(tasto)側を弾く	st.と省略	緩やかな柔らかな音が出ます
sul ponticello	: 駒(ponticello)側を弾く	sp.と省略	金属的な鋭い音が出ます

と記述します。

どのように弓を使い、どのように弾くのか、全般をBowling(弓使い)と呼びます。

Bowlingは、弓の方向(up, down)、弦に触れる弓の毛の当て方、弓の位置、使う長さ、弾く強さ、弓の速度などを含んでいます。一般的には奏者が考えて演奏します。

**col legno** : 木(legno)を使うという意味で、木製の棹の部分で弦を叩くように演奏します。  
**col legno battuto** (木の部分で叩く), **coll'arco al rovescio** (弓を裏返しにして)と書く場合もあります。木がぶつかる音が神秘的な響きを演出しますが、弓が傷みますので奏者は嫌います。

有名な例は、

Hector Berliozの幻想交響曲 第5楽章  
Igor Stravinskyの春の祭典  
Gustav Holstの組曲「惑星」第1曲“火星”の最初  
などロマン派の音楽で使われることが増えます。僅かですがHydnやMozartも使っています。  
Mozart : Violin Concerto No.5 K.219, III. Rondeau – Tempo di minuetto  
トルコ風と呼ぶ部分の Violoncello/Contrabass.にcol legno が出て来ます。

## 弦楽器の音楽

**pizzicato** : 弓で弾く代わりに、指ではじく奏法 : とても一般的に使われています。

**左手のピチカート** : 弓を持つ右手ではなく、左手を使います。左手の弦を押さえている指の隣接した指で、はじきます。

両手のピチカート (two-handed pizzicato) とも呼びます。

m.s. (mano sinistra : 左手) や m.d. (mano destra : 右手) の頭文字を使います。右の譜例の様に、+ の記号を使い左手を指します。



ピチカートを鳴らした左手は、位置を変えることが出来ます。この事は、pizzicati と併行して右手で弦を弾くことも出来ます。高等技法です。有名な例は

Paganini の第24番の capriccio (奇想曲, 仏 caprice)

Sarasate の “Zigeunerweisen”

逆に、弓で弾いている間に、左手のピチカートを使うことも、19世紀後半以降に使っています。

### バルトーク・ピチカート Bartók pizzicato

弦を強くはじいて、指板を打つ pizzicato です。実際には、Mahler が交響曲第7番の第3楽章等で使っていますが、Bartók が好んで使ったことから、この様に呼ばれています。

♯ の記号を使います。



B. Bartók : 弦楽四重奏曲第4番 第4楽章 Allegro pizzicato

G. Mahler : 交響曲第7番 第3楽章 Scherzo (Schattenshaft) 等

### ミュート con sordino

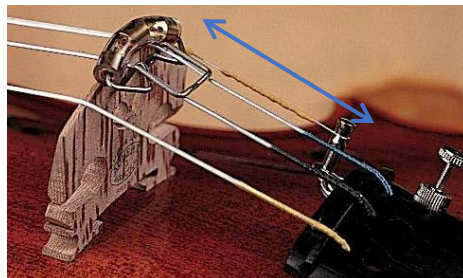
弦楽器の弱音器は、ゴム製、木製、形状も様々ですが、駒に付け弦から楽器本体に伝わる振動を抑えます。特に高次倍音が押さえられる為、音色がおとなしくなります。音量を抑えるよりも、音色を抑える効果を狙って使われます。

ミュートの存在する、金管楽器、弦楽器とも、主な目的は **音色を変える** 為に使っています。Tchaikovsky の交響曲第6番で弦楽器に con sordino を使う例は、*mf* や *f* を演奏しています。

ゴム製の sordino を駒に差しています



ゴム製の sordino は小さく無くし易い



そこで、楽器に付けたままの、落とさないモデル弦の上をスライドします。

現在使われている小型のゴム製も弦に通せるようになっています。

←原理的にはOKです

脱着は楽そうですが、

下手に触ると、駒が動きそうです。



# 弦楽器の音楽

## con sordino

### 1. Jean Sibelius : The Swan of Tuonela (De zwaan van Tuonela), Op. 22, No. 2

Berliner Philharmoniker

指揮 : Herbert von Karajan

### 2. Pyotr Ilyich Tchaikovsky : Symphony No. 6 in h-Moll "Pathétique"

Dresdner Philharmonie

指揮 : Marek Janowski

Kulturpalast Dresden, (2021/06)

I. Andante 呈示部 第2主題の呈示

IV. Finale. 最終部分

## Pizzicato

### 3. Leroy Anderson (1908 – 1975) : Jazz Pizzicato

指揮 : Vahan Mardirossian

ORCW (Orchestre Royal de Chambre de Wallonie)

ベルギー、ワロン地域のMonsを中心に活動する室内楽王立オーケストラ

## Bartok pizzicato

### 4. Gustav Mahler (1860–1911) ; Symphony No. 7 (1904-05)

III. Scherzo. Schattenhaft – Trio

Trioの最後に当たる位置に、Bartok pizz.がcontrabassに1回だけ出て来ます。譜面には So stark anreißen, daß die Saiten an das Holz anschlagen. (弦が指板に当たる様に強くはじく) と注釈が付いています。

Lucerne Festival Orchestra

指揮 : Claudio Abbado

Lucerne Festival, Lucerne Culture and Congress Centre 2005/08/17

全く憶える必要の無い情報

小節番号	英 bar number	独 Takt	401
練習番号	英 rehearsal number	独 Buchstabe	162 – 6

左手(両手)のpizzicato (この曲では、両手になります)

### 5. Niccolò Paganini (1782 – 1840) : 24 Capricci から Caprice No. 24 奇想曲第24番

solo Violin : Augustin Hadelich / 2018

Augustin Hadelich (1984, オーガスティン・ハーデリッヒ) 伊出身の独系米国人  
イタリアToscana州のCecina(チェチーナ)で独系の両親の元に生まれ、2歳年上の兄はcelloとpianoを習い、5歳のAugustinはviolinを父親(農業でアマチュアのcellist)から教育を受けています。HadelichはViolin奏者、Uto Ughi (伊 1944), Christoph Poppen (独 1956), Igor Ozim (Slovenia 1931), Norbert Brainin (唄 1923 – 2005, Amadeus Quartet)らから早すぎるレッスンを受けています。Hadelichは年少のviolinist, pianist, 作曲家としてドイツで教育を受けています。

1999年, Augustin Hadelichは実家の火事で大きな火傷を負い、ドイツで手術を受けています。この事故で、1年以上演奏出来ていません。「たぶん、この経験で、演奏を再開出来ないかもしれないという気持ちから、今は演奏出来ることに感謝し、楽しむことが出来ていますので、この事故にも感謝し、音楽がどれだけ大切なのかを感じています」とコメントしています。復帰後、イタリアの音楽院、New YorkのJuilliard音楽院を卒業し、2014年に米国市民権を得ています。

## 弦楽器の音楽

### col legno

#### 6. Gustav Holst : “The Planets” Suite for Large Orchestra, op.32

組曲「惑星」第1曲“火星”の最初

Warsaw Philharmonic Orchestra

指揮 : Maciej Tarnowski

2015/11/27 国立Philharmony concert hall (Filharmonii Narodowa), Warsaw

#### 7. Wolfgang Amadeus Mozart : Violin Concerto No. 5 in A-Dur, K. 219

III. Rondo : tempo di Minuetto

トルコ風の箇所 Vc., Cb.にcol legnoが出て来ます

Violin 指揮 : Noah Bendix-Balgley (2014からBerliner PhilのConcert master)

Berliner Philharmoniker

Berlin Philharmonie, 2018/01/21

Mozartの協奏曲にある“Eingang”について

Eingang (入り口) 曲もしくは楽想が変化する所で、次の曲、楽想を導く

Cadenza (終止形) 曲の終結部分を導く

このRondoは、A (Menuetto 3拍子) – B (トルコ風 2拍子) – Eingang – A (Menuetto) という構成になっています。このトルコ風から見えています。

#### 8. Wolfgang Amadeus Mozart : Divertimento D-Dur, K. 136

I. Allegro, II. Andante, III. Presto

Divertimento K.136, 137, 138は、Salzburgで16歳のMozartが作曲した弦楽四重奏曲です。

Divertimentoという呼び名はMozart自身付けていません。この3曲は2回目のイタリア旅行から帰国後の作品で、イタリア音楽の影響を受けています。作曲に関わる資料が少なく、譜面に楽器の記述も曖昧な為、どの様な編成で演奏するのか不明で、多く議論されてます。現在、弦楽合奏でK.136, K.138とも良く演奏されています。この作品には、以降に作曲する交響曲への序奏と考えられる作り、音楽の構成と楽器の構成が見られます。

Violin, 指揮 : Pekka Kuusisto

Det Norske Kammerorkester ノルウェー室内管弦楽団

Universitetets Aula (Oslo, Norway) 2022/02/05

#### 9. Antonin Dvořák (1841 – 1904) : Serenade for Strings (Smyčcová serenáda) 弦楽セレナーデ E Dur op.22

I. Moderato, II. Tempo di Valse, IV. Larghetto

P. I. Tchaikovsky (1840 – 1893), Sir Edward Elgar (1857 – 1934)の弦楽セレナーデと共に“三大弦楽セレナーデ”とされます。Dvořákが33歳の時、1875年5月に11日間で作曲しています。この時期、Dvořákは2年前に結婚し、オーストリア政府奨学金に合格し、安定した幸福感に恵まれた状況で作曲しています。そして、交響曲第5番、スラヴ舞曲集(op.46)など出世作を書く直前の作品です。1876年12月10日、チェコとドイツの劇場楽員による混成合奏で、Adolf Čech (1841 – 1903)の指揮でプラハにて初演しています。

曲は I. Moderato, II. Tempo di Valse, III. Scherzo: Vivace, IV. Larghetto, V. Finale: Allegro vivace の5楽章構成です。Dvořákの作品の特徴は、民族的で哀愁の漂う美しい旋律です。この作品も、美しい旋律を簡潔で判りやすい音楽で構成しています。耳に残る作品です。演奏側から見ると、音域が広く、テンポが微妙に変化し、簡単な曲ではありません。

Violin, 指揮 : Anthony Marwood (1965, London), 常任演奏家(2016/2017)

Det Norske Kammerorkester ノルウェー室内管弦楽団

Universitetets Aula (Oslo, Norway)/ 2017/01

## 弦楽器の音楽

### 10. Gustav Mahler : Sinfonie Nr.5 in cis-Moll,

IV. Adagietto. Sehr langsam.

弦楽合奏にHarpが加わる構成で、激しい表情を見せながらも、透明感と静寂に満ちた美しい作品です。中間部でHarpは沈黙し、弦楽だけの演奏で表情を少しだけ変えます。Violin 1とViolaの高音からの下降 glissandoを挟んで、最初の楽想に戻ります。3部形式構成の音楽です。

この曲で、Mahlerは弦楽器の響きを、十分に、美しく引き出しています。Mahlerの交響曲を演奏する大規模な弦楽器の編成でしか出せない、消えるような *ppp* から、深い響きの *ff* までを使い分け、弦楽器の各楽器が持つ魅力的な音色を十分に聴かせています。

この楽章は1971年に映画で引用され有名になりましたが、以降、様々なメディアで引用されています。

hr-Sinfonieorchester (Frankfurt Radio Symphony)

Dirigent : Andrés Orozco-Estrada,

Alte Oper Frankfurt, 10. März 2017

### 11. Johannes Brahms : Ungarische Tänze Nr.1 g-Moll, WoO. 1

Brahmsは1850年代に、Hungary出身のViolin奏者 Eduard Remenyi (エドゥアルト・レメニ)と演奏する機会があり、その時、レメニからジプシー音楽(ロマRoma\*系の民族音楽)を教えられ興味を持ち始めます。以降、Hungaryにある民族音楽として採譜を続けています。Brahmsは伝統音楽を編曲したとして作品番号を付けずに、1869年、Piano曲(連弾)として出版しています。但し、全21曲中、第7曲、第11曲、第14曲、第16曲はBrahms自身の作曲です。このPiano版は好評を得ています。

1873年、Brahms自身が指揮する演奏会で取り上げる為に、第1曲、第3曲、第10曲を管弦楽版に編曲し直しています。この第1曲はBrahms自身の編曲で、Piano版のg-Mollを変更していません。おそらく、この曲の最初の主題がViolinのG線で演奏する音域にそのまま収まり、音楽の特徴となる音色を変えないように配慮し、調を固定している様に見えます。



\*ロマ系(ロマニ): 北インド・パキスタンに起源を持つインド・アーリア人系の移動民族、欧州のジプシーの最大勢力

この演奏の冒頭、拍手が曲に掛かっていますが、Encoreで演奏された為です。

指揮 : Simon Rattle

Berliner Philharmoniker

New Year's Eve Gala on 31rd Dec 2011 (Silvester)

Philharmonie, Berlin

Silvesterの由来

聖Sylvester I世教皇の日

第33代 ローマ教皇



scordaturaの実例

Gustav Mahler : 交響曲4番 第2楽章 solo violin (A – E – H – Fis)

第2楽章に出てくる solo violin の調弦は、普通の調弦より4本の弦とも、全音高く調弦します。同じ譜面をそのまま弾くと、全音高くなってしまいますので、譜面は全音低く記譜します。

N.B. (notabene ; 注釈)

Der 1. Sologeiger hat sich mit 2 Instrumenten zu versehen, von denen das eine um einen ganzen Ton höher, das andere normal gestimmt ist.

第1ヴァイオリンの独奏者は2台の楽器を用意し、1台は全音高く調弦し、もう一台は通常の調弦にしてください。

Mahler — Symphony No. 4 in G Major

1. Violine.  
II.

6

NB. Der 1. Sologeiger hat sich mit 2 Instrumenten zu versehen, von denen das eine um einen ganzen Ton höher, das andere normal gestimmt ist.

NB 1. Solo-Violine gestimmt in:



In gemächlicher Bewegung. Ohne Hast.

ohne Dämpfer sehr zufahrend immer sehr hervortretend.

1段目(Solo) ♭が5個付いています。 Des-Dur / b-moll

2段目(Tutti) ♭が3個付いています。 Es-Dur / c-Moll

この2個の ♭ の差で、1段目は全音低く記譜されています。

この赤点線枠の部分で見比べると判りやすい

# 見て聴いて楽しむ音楽史

8月はお休みです

## 第13回 バロック音楽(その1) イタリア・バロック音楽

日時: 2022年9月1日(木) 14:30-16:30

会場: 湘南アカデミア7階

取り上げる曲: イタリアのバロック音楽を紹介します

G.Frescobaldi, G.Carissimiの声楽曲,

A.Corelli, G.Torelli, A.Vivaldiの協奏曲、Gloria ミサ抜粋 等

## 第14回 ロマン派の音楽(その1) BrahmsとWagnerの音楽

日時: 2022年10月6日(木) 14:30-16:30

会場: 湘南アカデミア7階

取り上げる曲: ロマン派音楽を牽引する、ブラームスとワグナーの音楽と背景

★曲は予定です★

R.Wagner: 楽劇 "トリスタンとイゾルデ" 第1幕への前奏曲の冒頭部分

F.Liszt: 交響詩 "Les Preludes (前奏曲)" S.97より第1部

A.Dvořák: 交響曲第7番 ニ短調, op.70 より第3楽章 Scherzo

J.Brahms: 交響曲第4番 ホ短調, op.98 より第1, 第4楽章

R.Wagner: リエンチ序曲、神々の黄昏の最終情景、ローエングリン第1幕への前奏曲

今後の予定 11月、12月以降は、

バロック音楽(その2) フランス・バロック音楽

: J.Lully, F.Couperin, J.Rameau

ロマン派の音楽(その2) ロマン派音楽を立ち上げた音楽家達

: C.Weber, F.Schubert, F.Mendelssohn, R.Schumann

バロック音楽(その3) ドイツ・バロック音楽

: H. Schutz, D.Buxtehude, J.Pachelbel, G.P.Telemann

国民楽派の音楽(その1) チェコと北欧の国民楽派

: B.Smetana, A.Dvořák, E.Grieg, J.Sibelius

ロマン派の音楽(その3) ロマン派音楽を発展させた音楽家達

: R.Strauss, G.Mahler 等

(英国の宗教改革とルネサンス音楽)

等を予定しています